

はじめに

我々は長いこと英語を学び、とりわけ文法の学習には相当の時間を費やしています。ところが、しばしば間違いを犯し、その間違いに気付くこともなく答案を出してしまいます。間違いを犯さない、そして万が一間違いをしても自分で気付き訂正できるようになりたくはありませんか？ 本書は以下のようなことを目指した本です。

●本書の対象読者と目標

本書は単純な「なぜだろう本」ではなく、次の目標に沿う内容になっていません。

- ①作文は勢いで書いてしまうものです。勢いで書いた段階においても間違いを極力減らすことが第一目標ですが、万が一間違いをしても、自分でもう一度見直した時に自分の間違いに気付き、自分になぜ間違いなのか説明しつつ訂正できるようになること。これにより、試験などでは減点されるのを回避することができるようになります。
- ②生徒など他人の英作文の誤りを指摘し、訂正できるようになるとともに、何故正しくないのか相手に納得のいく説明ができるようになること（教員等）。
- *これは英語を母国語とする話者や帰国子女など「英語の達人」と呼ばれる人たちが苦手とする領域なので、これが得意になることは、彼らと差別化する際大きな利点となります。我々日本人が日本語の間違いについて、その理由をうまく説明できないのと同じように、どんな母国語話者でもその人が言語学者でもない限り、自分の母国語の間違いについてうまく説明できないのが普通です。帰国子女なども文法など意識せずに英語を習得してきたので、基本的に同じです。
- ③しばしば英作文をする必要に迫られ、しかも添削してくれる人がいない、ま

たは間違いをすると支障がある人の確実な英作文能力と自己添削、修正能力の育成。

- ④英作文に限らず、広く自分の言いたいことを英語で自由に表現できるようになること。
- ⑤TOEICなどのような、文法を表面的な暗記ではなく、根本理解しているかどうかを試す試験において高得点をとれるようになること。

以上は、みなさんが望むことでしょう。①が可能になれば試験での減点は大幅に減るだろうし、②ができないために、「これを素直に覚えればいいんだ！」(言い方は様々)としか教えられない“教師”が後を絶ちません。④についても、「英会話の番組を毎日欠かさず聞き、覚えろと言われた表現は書き出して覚えているが、10年経っても全然話せるようにならない」というような話によく耳にします。また、高校まで長期にわたり文法を学んできたが、試験などを受けても、文法問題が超苦手という方もすこぶる多いようです。これらは、勉強の仕方何らかの問題があるからだと思えるのが自然でしょう。

●従来の文法書の問題点

(上記④の)何年英会話を勉強しても身につかない原因は暗記学習をしているからであると考えられますが(「第1章」参照)、暗記学習の問題点は何も会話に限りません。従来の文法書や教科書などには以下のような問題点があります。

- ①従来の文法書などのような構文の丸暗記では、暗記する構文の数が膨大になり、その結果生じる記憶間違いや記憶漏れ、忘れ(丸暗記したものはすぐ忘れ、記憶間違いも多大になる)等はすべて間違い、使えないものにつながります。特に、本来は関連させるべき現象を別々のものとして扱っている効率の悪い本が多く、構文、規則がおおさら多くなり、記憶漏れや忘れを助長していました。難解な用語も多用され、それら用語まで丸暗記している人も多いようです。
- ②これは暗記学習の特徴ですが、記憶違いをしていますが、自分では自分が記憶

しているものを正しいと信じているため、記憶違いをしているものを何の疑いもなく使ってしまう、自分の間違いに気付くことは決してなく、その能力すら奪われてしまっているのです。

●本書の内容

以上で述べた従来の文法書の問題点の一つは、暗記に依存することにより暗記する規則や構文が膨大になってしまい、この結果記憶漏れや記憶違いが生じ、それが誤りや使えないものにつながるといことです。また、暗記学習に過度に依存しているため、自分や他人の誤りに適切に対処できないのです。これらをを解決すべく、本書では以下のような手法を採用することにより、暗記を極力やめ、理解しながら一歩一歩着実に進むことにします。

- ①理屈で一つひとつの要素の存在理由を理解しながら進みます。
- ②日本語にもあるものは、日本語の知識を積極的に利用します。(日本語の知識は無意識に習得しているため、説明を求められると難しいものですが、言われてみれば理解は容易です。)
- ③文法用語は、基本的なもの以外原則使用しない、覚えさせないようにします。

以上により暗記しなければならない規則は大幅に減り、記憶漏れや記憶違いの問題は大半が解消するはずですが。また特に①により、勢いで書いた作文などを冷静に見直し、理屈と照らし合わせ矛盾点を見つけ訂正できるようになるでしょう。他人に対しても、「これ私の覚えたものと違うので、私の言うものを覚えて」ではなく、相手に説得力のある説明が可能になるでしょう。

すばらしい。ただ、それでもどうしても英語の規則として習得しなければならないものも残ってしまいます。残念ながら。そのような場合も、従来のように規則を羅列するのではなく、関連しそうな事項を全部横に並べ、少ない統一的な規則で処理します。「関連しそうな事項を全部横に並べ、少ない統一的な規則で処理する」という考え方はわかりにくいかもしれませんが、数学の例を借りれば理解しやすいでしょう。小学生の時、正方形、長方形、平行四辺形、

三角形、台形の面積を求める公式をそれぞれ暗記したでしょう。これは無駄です。台形の面積を求める公式だけですべての面積を求められるのです。正方形、長方形、平行四辺形は上辺と下辺の長さが等しい台形、三角形は上辺がゼロの台形です。一つで済むものは一つに整理するのが、この本で行う「少ない統一的な規則で処理する」ということなのです。

最後に、本書刊行に当たり、ご指導、ご助言をいただいた大学教育出版の佐藤守氏に心からの感謝を申し上げます。また、本書出版に際し英文校閲をお引き受けいただいた、Peter Mountford氏にも深く感謝いたします。

2016年夏

著者

見ても聞いてもわかる
バリアフリー英文法

目次

はじめに	i
第1章 プラトンもびっくり、日本人の驚異の暗記力！	1
第2章 文法の暗記学習の大きな落とし穴	5

第I部

Part I 主に、日本語にもある万国共通の「基本原則」で説明すべき英語の諸現象

第3章 本書で使用する「国語」でも習う基本原則	10
第4章 受け身文の派生	14
第5章 不定詞句の3つの用法の名称の由来	22
第6章 仮定法の助動詞と時制	30

Part II 主に、日本語と照らし合わせて考えると理解しやすい英語の諸現象

第7章 名詞句 (1)	41
第8章 名詞句 (2)	50
第9章 関係代名詞と関係副詞	58
付 録 Yes/No 疑問文と否定疑問文	69

Part III 主に、規則を整理し、より少ない規則で

第10章	wh 疑問文、間接疑問文における倒置と do 挿入	73
第11章	wh 現象に共通の制約	86
第12章	分詞と関係代名詞	91
第13章	SVC 構文の C の位置や名詞の前に現れる形容詞的分詞 —— あなたは frightened、それとも frightening ? ——	101
第14章	定冠詞 the の用法は一つ	112
第15章	時制	121
第16章	接続詞のよくある恥ずかしい間違い	132

第II部

第17章	英語が話せるようになるために	140
第18章	総合練習問題	144